

# 一般質問

## 市民クラブ

### BSL-4施設設置容認の危険性

**問** 国の関与があれば、施設に隣接する住民の命を守ることができると考えているのか。

**答** 施設の設置には、安全性の確保と市民の理解が前提であり、そのためには、国の関与が必要不可欠である。

長崎市としても、感染症対策の当事者である国の関与を強く求めてきたが、それが文書で示されたことは、市民の安全・安心のための重要な要素だと考えている。

一方、事業主体である長崎大学では、運用中の海外施設を参考に、具体的な安全対策の議論を行うとともに、大学の取り組みを厳しくチェックする仕組みも構築することとなっている。

長崎市としては、施設が安全に運営され、地域との共生を図りつつ、その研究成果が最大となるよう、引き続き大学と国に最大限の努力を求めていく。

**BSL-4施設**：エボラ出血熱の原因ウイルスなど、危険度の高い病原体を取り扱うことができる実験施設

### 急増するクルーズ客船の受け入れ態勢

**問** 新たな観光ルートの開発による外貨を稼ぐ仕組みづくりにおいて、長崎県と連携した受け入れ態勢について伺いたい。

**答** 新たな観光ルートの開発と提案については、長崎県や九州運輸局と連携しながら取り組んでいる。

その結果、中国クルーズのツアーについては、浜町や中華街、東山手・南山手を散策する良質なフリープランが少しずつ増えてきている。また、欧米クルーズにおいても、まちなかの散策だけでなく、軍艦島を訪れる観光客が増えてきている。

今後とも、長崎県を初め関係団体との連携を密にし、長崎の持つ多様な素材を活用して魅力あるルート提案を行うことにより、市内滞在時間の延長を促し、地域消費の拡大推進に努めたい。



▲長崎港へのクルーズ客船入港数は今年も増加の見込み

### 全国学力・学習状況調査の結果と課題

**問** 公表された今年度の調査結果を分析した内容と、その結果を受けての今後の学力向上のための教育方針について伺いたい。

**答** 長崎市の結果については、これまで全国平均を若干下回っていたが、年々その差は縮まり、今年度は全国平均並みとなった。これは、長崎市独自の学力調査により学力の実態把握を行うとともに、小学校低学年からのきめ細やかな学習支援や、ICTを活用した授業などに取り組んだ成果が表れたものにとらえている。

しかし、基礎的な学習内容の定着に課題があるため、基礎基本の学習プリントや過去の学力調査の問題を授業などに活用するよう教師に働きかけるとともに、地域の協力を得ながら放課後や夏休みなどの学習を支援する長崎寺子屋事業を推進していきたい。

また、学力向上のためには、基本的な生活習慣の定着も必要であり、これまで以上に学校と家庭の連携を図っていききたい。

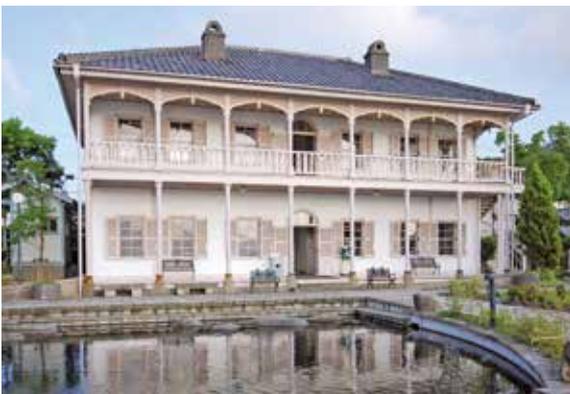
### 2つの世界遺産の活用策

**問** グラバー園からの眺望の確保のため樹木の剪定を行い、案内板を設置するべきではないか。また、県外に流出

した潜伏キリシタン関連資料の里帰りが急務と考えるが、その見解を伺いたい。

**答** グラバー園内の樹木については、歴史的な風致に調和するよう十分配慮しながら、適切な管理を行っていききたい。また、案内板については、旧三菱第2ドックハウス内に写真付きの解説パネルなどを設置し、2階のテラスから望むことができる産業革命遺産の構成資産の位置関係を来訪者が理解できるようにしたい。

潜伏キリシタン関連資料の里帰りにについては、東京国立博物館にその所蔵する資料の返還について相談したところ、移管は困難との見解が示された。しかし、長崎への里帰りは世界遺産登録の機運を高めるものと認識しているため、今後も可能性を探っていききたい。



▲2階のテラスから多くの構成資産を望むことができる旧三菱第2ドックハウス（グラバー園内）